

株主の皆様へ

# 第57期 報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日



雪の大谷付近に行く高原バス（昭和47年）



## 株主の皆様へ

代表取締役社長 見角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

ここに、第57期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申しあげます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、当期のわが国経済は、非常に困難な状況に直面いたしました。経済活動は、徐々に持ち直しの動きがみられるものの、感染拡大防止のために人為的な抑制を余儀なくされ、これまでにない急激かつ大幅な景気後退を伴う厳しい状況となりました。

観光業界におきましても、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、感染予防のため、インバウンドが消失し、国内でも不要不急の外出・移動の自粛やイベント開催の制限等により、観光需要は大きく減少し、深刻な事態に陥りました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、春の「雪の大谷ウォークイベント」を中止した上で、昨年同様、4月10日には富山側の立山駅～弥陀ヶ原間が部分開通し、4月15日には立山駅～信濃大町駅間が全線開通いたしました。しかしながら4月16日には政府による全国を対象とする緊急事態宣言が発令されたことを受けて、4月18日から6月18日までの2か月間、立山駅～扇沢間の営業を休止するという、未曾有の事態となりました。人の移動・往来が段階的に緩和されました6月19日から営業を再開するに当たり、関係機関と協議の上、「立山黒部アルペンルート安全・安心ガイドライン」を策定し、各乗り物の運行につきましては、乗車人員を定員よりも減員すると共に減便して営業時間を短縮するなど、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、11月30日まで営業いたしました。

営業再開以降の推移を概観いたしますと、富山県からご支援いただき実施いたしました富山県民キャンペーンやGoToトラベルキャンペーンの効果もあり、富山県や近隣県からの個人旅客において徐々に回復傾向があらわれました。10月1日からは東京都に居住する方の旅行を対象としてGoToトラベルキャンペーンが拡充され、団体客も戻り始めましたが、春の2か月間に及ぶ休業が大きく影響し、入り込み客数を大きく落とすこととなりました。

この結果、当期の入り込み人員は合計230千人（前期比26%、653千人減）という全線開業以来過去最低の入り込み人員となりました。また、入り込み方面別では、富山入り込みが104千人（前期比24%）、大町入り込みが126千人（前期比28%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客については、7月の4連休以降、徐々に個人旅客が回復傾向となり、国内旅客全体の入り込み人員が229千人（前期比36%、414千人減）となりました。

一方、訪日旅客においては、感染症の世界的流行により、多くの国において、政府による入国制限や海外渡航禁止等の措置が講じられたこと等により、全世界的に旅行者の往来

が大幅に減少しました。(入り込み人員が1千人、前期比0.3%、239千人減)

次頁の「決算概要」に記載のとおり、当期につきましては、当期純損失計上のやむなきに至りましたため、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当金につきましては、無配とさせていただきます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

現在、日本国内においては、新型コロナウイルス感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に図るため、地域の感染状況に応じて、集中的な対策により急速なまん延を防ぐ感染防止策として、当該地域での不要不急の外出の自粛や催物(イベント等)の開催制限などの徹底した措置が講じられています。

当面、大変厳しい経営環境が続くことが予想されますが、終息後を見据え効率的な事業運営に取り組み、経営基盤の安定を図ってまいります。

この非常時に対し、新型コロナウイルス感染症の影響による創業以来最大の危機を克服するため、昨年7月に当社は、社長を本部長とし、経営改革会議を設置し、「感動を快適に」「変革への挑戦」「回復と蓄積」という三つのキーワードを基本方針として、中期経営計画を策定いたしました。

現状の経営環境を踏まえ、スリムな運営体質と適正な集客モデルを目指すべきであると考え、まずは、大量集客を前提とした要員確保を見直し、スリムな運営体制を再構築いたしました。さらには安定的な収益体質に変革するため、コストの削減等を果敢に実施し、損益分岐点の引き下げに取り組んでまいります。

また、本年度より新運輸システム(アルペンルート統合システム(名称:ARIS(アリス)21))の運用稼働を開始し、予約券の自動発券機による迅速な引き換えや乗車便ごとの予約管理などを通じて、適正な運行管理を推進してまいります。

この度当社は、令和3年3月31日をもって宇奈月国際ホテルを閉館させていただき、同日付けにてルートインジャパン株式会社との間で、同館の売買契約を締結いたしました。ホテルを取り巻く経営環境が著しく厳しさを増し、今般の新型コロナウイルスの流行を受け、昨年4月以降、営業を休止しておりました。その後も感染流行の影響が長引く中、営業再開のめどが立たず、当社経営に与える影響を回避することが喫緊の課題となり、同ホテルを売却することいたしました。当社といたしましては、今後は運輸事業に専念することとし、効率的な事業運営を目指してまいります。

令和3年度立山黒部アルペンルートの営業にあたりましては、昨年に引き続き、富山県、関係市町村、関係機関のご協力をいただきながら、誘客に努めてまいります。

昭和46年6月1日の全線開業以来、立山黒部アルペンルートは、おかげさまで本年、全線開業50周年を迎えました。令和3年度立山黒部アルペンルートの営業に際しまして、50周年を記念するビジョンを「自然とともに50年 感謝を込めて」といたしました。これからも佐伯宗義初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、次の50年も多くの皆様に喜ばれますよう、積極的な営業活動と、安全・安心な立山黒部アルペンルートの構築と、自然環境保全に役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 決算概要

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

## 【単体】

### 損益概要

(単位:百万円)

	令和 2年度	前期差	令和 元年度
	営業収益	917	△3,279
営業費	3,142	△1,234	4,376
営業利益 (△は損失)	△2,224	△2,044	△180
経常利益 (△は損失)	△2,050	△1,884	△166
当期純利益 (△は損失)	△3,556	△2,252	△1,303

### 資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 2年度	前期差	令和 元年度
	資産の部	10,180	273
流動資産	2,732	1,093	1,638
固定資産	7,448	△819	8,267
負債の部	8,108	3,827	4,280
流動負債	1,564	512	1,051
固定負債	6,544	3,315	3,229
純資産の部	2,071	△3,553	5,625

当期の営業収益は、9億17百万円（前期比21%）となりました。一方、営業費は、経営全般にわたる業務の効率化に努め、勤務体制の合理化や季節雇用者の抑制により人件費は減少し、変動費の販売手数料、有料道路通行料および修繕費の節減により物件経費並びに仕入費は減少したものの、営業費合計は31億42百万円（前期比71%）となりました。

これに、雇用調整助成金及び富山県からの助成金等の営業外収益2億34百万円（前期比479%）、営業外費用60百万円（前期比172%）を加減した当期の経常損失は20億50百万円となりました。さらに連結子会社である立山貴光ターミナル株式会社の株式評価損、及び宇奈月国際ホテルの売却損他による特別損失9億26百万円等により税引前当期純損失は29億62百万円となり法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、35億56百万円の当期純損失を計上することとなりました。

## 【連結】 連結子会社：立山貴光ターミナル(株)、立山黒部サービス(株)

### 損益概要

(単位:百万円)

	令和 2年度	前期差	令和 元年度
	営業収益	1,259	△5,346
営業費	4,325	△2,562	6,888
営業利益 (△は損失)	△3,065	△2,783	△282
経常利益 (△は損失)	△2,858	△2,592	△265
親会社株主に 帰属する当期純 利益(△は損失)	△3,624	△2,267	△1,356

### 資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 2年度	前期差	令和 元年度
	資産の部	11,072	△169
流動資産	3,422	1,018	2,403
固定資産	7,650	△1,188	8,838
負債の部	9,041	3,711	5,329
流動負債	1,716	395	1,321
固定負債	7,324	3,316	4,008
純資産の部	2,031	△3,880	5,911

### 連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貴光ターミナル(株)	立山黒部サービス(株)
営業収益	609	127
営業費	1,456	138
営業利益(△は損失)	△847	△10
経常利益(△は損失)	△809	△7
当期純利益(△は損失)	△909	△5

当社は、立山貴光ターミナル(株)へ営業の一切を委託しておりました弥陀ヶ原ホテルに関し、令和3年3月31日をもって、経営委託契約を解消いたしました。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響下におけるホテル事業運営の厳しい状況に鑑み、令和2年度に引き続き、令和3年度も同館の営業を休止することいたしました。

# 営業概況

## ■入り込み人員

(単位:千人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
富山入り込み	459	425	104
大町入り込み	522	458	126
入り込み人員合計	981	883	230
内、当社線入り込み人員	745	675	150

## 会社概要 (令和3年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町一丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 8,973,262株 (自己株式318,406株を除く)
- 株主数 1,425名
- 役員 (令和3年6月28日現在)

代表取締役社長	見角 要
専務取締役	中川 修
常務取締役	高江 均 (技術環境部担当)
常務取締役	中村 直幸 (経理部長)
常務取締役	秋元 一秀 (営業推進部長)
取締役	新田 八朗
取締役	永原 功
取締役	庵 栄伸
取締役	宮本 信之
取締役	辻川 徹
取締役	藤井 裕久
取締役	牛越 徹
取締役	尾崎 浩二
取締役	大谷 真一 (運輸事業部長)
取締役	川高 健裕 (経営企画室長)
取締役	杉林 義宏 (技術環境部長)
常勤監査役	川嶋 芳明
監査役	舟橋 貴之
監査役	新庄 一洋

# 株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
  - 株主優待券 2月末日
  - 定時株主総会の議決権 3月31日
  - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人  
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号  
日本証券代行株式会社
- 同取次場所  
日本証券代行株式会社 支店  
三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先  
〒168-8620  
東京都杉並区和泉2-8-4  
日本証券代行株式会社 代理人部  
0120-707-843 (フリーダイヤル)

## 単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

### <単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

### <単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

## 株主優待制度

当社は、「株主関連・株主優待券」につきまして、令和4年2月末日を基準日とする株主優待制度から、下記の内容への改定を予定いたしております。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 令和4年度 改定

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊 ご優待割引券
	種 類	通用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	1枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 2枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 4枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	16枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券(片道) 優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	24枚 1枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

### ～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

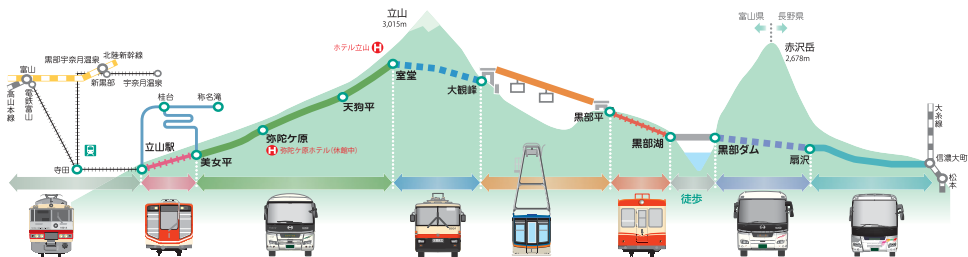
当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、左記日本証券代行㈱ 代理人部までお問い合わせください。





## 立山黒部アルペンルートのご案内



乗物	電車 電鉄富山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル トロリーバス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル 電気バス	路線バス
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.6km	6.1km (16分)	18km (40分)
運賃 (な)	片道	1,230円	960円	2,200円	2,200円	1,320円	1,050円	1,570円	1,390円
	往復	2,460円	1,920円	4,400円	3,300円	1,980円	1,580円	2,610円	2,500円

### 営業推進部

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36  
営業企画センター 販売センター WEB・PRセンター  
☎(076) 431-3331 FAX (076) 432-8535

### 東日本営業所

〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル3階  
☎(03) 3262-7028 FAX (03) 3265-5285

### 西日本営業所

〒550-0004 大阪府大阪市西区鞠本町1-9-15 近畿富山会館4階  
☎(06) 6445-0359 FAX (06) 6445-0398

### 運輸事業部

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦崎寺千寿ヶ原  
運輸課 安全推進課 業務課 予約センター 案内センター  
☎(076) 481-1173 FAX (076) 481-1185

### 大町事業所

〒398-0002 長野県大町市大町3-2-2  
☎(0261) 22-0198 FAX (0261) 23-2967

### グループのホテル

#### ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦崎寺室堂  
☎(076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

#### 弥陀ヶ原ホテル(休館中)

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦崎寺弥陀ヶ原

● 立山黒部アルペンルートオフィシャルサイト  
<https://www.alpen-route.com>

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社  
〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36  
☎(076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185

